

『一人の笑顔のために』

『ありがたい』出来事に感謝！

5月18日、「和水町の小中学校の先生方に使ってもらって子どもたちの安全な学校生活に役立ててほしい。」と和水町教育委員会に寄贈されたマスクが三加和中に届けられました。寄贈していただいたのは、下津原西の坂本やすよさんと坂本由美子さんのお二人です。三加和中にはそれぞれ20枚（計40枚）いただきました。本当に「ありがたい」ことです。



「さようなら」「ありがとう」 このことばは人を思いやる言葉です。

気持ちのよいあいさつは人間関係をなごやかにし親しみを生みます。ところが、日本人はあいさつが下手だともいわれます。ことに若い人たちのあいさつの仕方がぞんざいになったとも言われます。

「さようなら」「ありがとう」という言葉の意味について考えてみます。

「さようなら」という言葉は「さようならば」から変化したものです。現代語でいうと、「そうであるならば」という意味です。この「そう」の意味が大切なのです。「そう」というのは「相手の都合」ということです。「あなたのご都合がそうであるのなら、わたしはもうここにいる必要はなさそうですから、ここから去ります。」という意味なのです。相手の都合を尊重し、相手の条件を考えた実に思いやりのある表現なのです。

「ありがとう」という言葉もよく似ています。「有難う」は「有ることが困難です。」つまり、「めったにあることではありません。」という意味です。「このようなご親切は、なかなかあるものではありません。」という丁寧な心がこもっているのです。

どちらも人間関係を重んじた、わたしたちの先祖の温かい心が遺した言葉なのです。この温かい心をいつまでも引き継いでいきたいものです。

今、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにも多くの方々が動いて下さっています。

本当に「有り難い」ことです。「有り難い」という感謝の気持ちで物事を見ていくと、見え方が変わってくるというお話を紹介します。

ある日曜日、久しぶりに一家団欒の静かな朝、二人の子どもと夫婦がお茶を飲みながら狭いながらも楽しいわが家のひとときを過ごしていました。そのとき、突然という感じでガガガッという耳をつんざく騒音が始まりました。

「ヤヤッ」「何だ！」という感じである。すぐそばで何やら工事が始まったのだ。

とにかく家族の声が聞き取れない。静かな団欒どころではなくなった。

「まあ、ひどいなあ。日曜日なのに、こんな騒音をたてて、いいと思っているの!」「まったく非常識もはなはだしい!」「そうだね何の工事が知らないが、日曜日にやるのは迷惑だ」とお父さんと子どもたちは不満をぶつけあった。

それを聞いていたお母さんが、次のようにつぶやいた。「あの工事をしているおじさんたちもご家族があるでしょう。日曜日なので、家に居て皆とお茶を飲みながら、一家団欒したいでしょうに、私たちの街のために工事して下さるって、**ありがたいことだね**」これはお父さんと子どもたちにはまさに晴天の霹靂（へきれき）だった。ハッとと思ったらさっきまで耐えられなかった騒音が、そんなでもなくなった。不思議である。同じ騒音なのに、心のフィルムを替えてみると、受け取り方の違いによって、世界がまるで違って見えるのである。（財団法人熊本県教育弘済会・熊本県教育公務員弘済会会報 より）

